

紫檀書棚 堀田瑞松 明治24年(1891) 1対 紫檀・彫刻 本体のみ各35.7×104.0×145.5







明治24年に納入され、〔西の間〕に設置されていた一対の紫檀製の棚で、伝統的な形式ながらも、椅子座の生活様式に合わせて、さらに台に載せられていた。また、このような背の高い棚がさらに台に載せて配置されたのは、明治宮殿の高い壁面を飾るための意図も感じられる。四段の棚で、引戸や開戸に山水楼閣や花瓶に活けられた四君子を浮彫で表している。作者は堀田瑞松(1837~1916)である。堀田は鞘塗師の家に生まれたが、後に唐木細工や彫刻を手掛け、蒔絵の他、紫檀彫で知られた。また、漆を用いた防錆の方法を研究し、防錆塗料で明治18年に我が国第1号の特許を取得したことは有名である。本作は堀田の代表作のひとつに位置づけられよう。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

幻の室内装飾 ―明治宮殿の再現を試みる

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 56

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十三年九月二十三日発行

© 2011 The Museum of the Imperial Collections